

東海大学医学部の入試結果説明を行っていただいたので情報を共有します。

・物理が難化

今年は物理が異常に難化しました。

当塾の生徒でも物理50点で正規合格者がいたため詳細を尋ねたところ、物理50点では偏差値換算で80を超えたとのこと。

実際物理が60点だった生徒は数学45点（平均点以下）でも合格者がいたとのこと。

化学選択者が圧倒的に多く、偏差値が出にくい物理や生物が得意な受験生はこれらで受験したほうが偏差値が出やすく有利になるとのこと。

（東海は点数ではなく偏差値での合格判定を行う）

・浪人生、再受験生について

全く差別はしていないとのこと。今年は1浪、2浪の入学者が多いが、それは結果としてそうだった。4浪以上もいる（当塾からも4浪で進学者あり）し、39歳の再受験生が入学したとのこと。

・面接について

二次試験の面接はA,B,C,D評価をつけるが点数化はせず、D評価の受験生は一次試験の結果に関わらず不合格となった。D評価でない限り一次試験の偏差値のみで合否判定を行う。

実際数名の不合格者がいたが、全員10分間の面接でほとんど全く答えられず沈黙になってしまったとのこと。不適切な発言で不合格になった受験生はいない。

なお、来年度は沈黙になってしまう受験生を救済すべく面接時間を10-20分に変更するが、これは救済処置であり面接が厳しくなるということではない。（評価基準に変更なし。）

・静岡地域枠の増設

来年度から静岡地域枠（卒後9年静岡での勤務を条件に1400万円？の学費免除）が3名で増設される。神奈川枠も上位層はセンター利用に流れたため、比較的低レベルな戦いになったとのこと。

・特待の増設（検討中）

東海大学に卒後残ってくれることを条件に6年で1200万円の学費免除を行う枠の増設を検討中とのこと。

・センター利用入試

受験者は多く、前期の合格点数は87% 後期では90%に達した。

入学者は前期後期ともに3名ずつであり、これらの点数をとった受験生は多くが国公立に合格したためとかがえられる。

・カリキュラムについて

東海では今年の入学者からCBTが3年生で受験するという”大改革”が行われた。（他大学はどこも4年生で受験）

それに伴って解剖も1年生に行うなどカリキュラムの前倒しを行う。

そのほか各科の著名なドクターを招いての講義を開催するほか、ハワイへの留学プログラム、USMLE取得に向けたプログラムなど教育カリキュラムを充実させている。

（以下 高梨の勝手な考察）

CBTの3年生受験はかなり不安。

CBTに合格できないと臨床実習の資格が得られないため実質留年となる。勉強意欲のある学生にとっては魅力的だが、多くは部活に所属する。

部活ではこれまで4年生の夏などに引退してからCBTの勉強に備えていたと思われるが、CBTが3年になることによって上級生との連携がとれず混乱が生じる可能性は高い。

この件について尋ねてみたが、部活については配慮していなかったがなんとかしていくとのこと。

（失礼ですが）東京医科歯科大学などのハイスペックな学生であればともかく、他大学がみな4年生で受験するものを東海大学のみが3年生で受験するというのはチャレンジングだといえる。

受験においてもセンター利用の増設、地域枠の増設、東海内部進学者が多いなどいろいろと試している状況（現状理想的な学生をとる点であまりうまくいっていないとのこと）。

昨年は物理が異常にやさしく、今年は一気に難化するなど安定しておらず来年も予測は困難。（物理は今年よりはやさしくするとはいていた）

教育には熱心であり、実際「頼れる病院ランキング」では大学病院で例年トップをとっているなど魅力も多い。

以上。